

成田市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体第3回会議 議事録

1 開催日時

平成29年9月29日（金） 午後2時から午後4時

2 開催場所

成田市役所第2応接室

3 出席者

（委員）

西田委員、小林委員、佐藤委員、大木（和）委員、西村委員、宮崎委員、渡邊委員、石井委員、高橋委員、小山委員、沓掛委員、山根委員、野平委員、北村委員、以上14名（欠席：大木（み）委員（荒井氏代理出席）以上1名）

（事務局）

高田福祉部長

三橋介護保険課長

加瀬林高齢者福祉課長、平岡係長、渡未副主幹、松村主事

社会福祉協議会地域福祉係武田係長

小野生活支援コーディネーター

4 会議次第

1 開会

2 福祉部長あいさつ

3 議題

（1）生活支援コーディネーター活動報告と今後の活動予定

（2）高齢者福祉課より

- ・成田市認定ヘルパー養成研修の実施について
- ・なりたいきいき百歳体操サポーター養成講座の実施について
- ・第2層生活支援コーディネーターの配置について

（3）意見交換

- ・今後、協議体で取り組むこと（具体的な方針の決定）

4 その他

5 閉会

●開会 事務局

新委員の紹介。成田市区長会より選出されていた一色委員の後任として、会長の宮崎廣文様が就任、宮崎委員より挨拶。

成田市ヘルパー連絡会の大木委員が所用のため欠席。大木委員の代理として荒井様に出席していただいている。本日、傍聴者はいないことを報告。

●福祉部長あいさつ

市全体の方向性やニーズを地域全体で支える体制を整備するため、本年 1 月に本協議体を発足し、今回第 3 回目を迎える。これまでの会議の協議内容を踏まえ、本日の会議では第 1 層協議体で議論する内容やテーマを絞っていく必要がある。これまでに第 1 層生活支援コーディネーターより、市全体で取り組むべき課題として、居場所、見守り、買い物の 3 点が挙げられているが、居場所については、高齢者の居場所づくりに向けたボランティアを養成するため、保健福祉館で居場所立ち上げ講座を開催し、約 40 名の参加が得られるなど、市民の居場所に対するニーズや関心の高さが伺えた。次年度は、市全体の調整と合わせ、地域特性を踏まえ、日常生活圏域毎に体制に整備が必要と考える。先ずは、第 2 層生活支援コーディネーターとして、成田地区を担当する西部南地域包括支援センターに 1 名配置を計画している。今後、他の圏域でも具体的な活動を進めていく予定である。

本協議体は市全域の情報の共有、連携の強化を図りつつ、地域全体で高齢者の自立を支援し、必要な生活支援体制が強化できるよう取り組みを進めていく必要がある。

現在、平成 30 年度から 32 年度を計画期間とする、第 7 期成田市介護保険事業計画の策定を進めているところであり、協議体委員の皆様の意見を頂戴し、計画に反映していければと考えている。今後とも本市の地域包括ケアの推進にご理解とご協力をいただきたい。

●委員長挨拶

協議体は今回で 3 回目だが、まだ模索段階である。4 回目あたりから方向性を決めていきたいと考えている。

●生活支援コーディネーター活動報告と今後の活動予定（生活支援コーディネーター）

生活支援コーディネーターの仕事のひとつである社会資源の調査について。成田市全体の高齢化率だと見えてこない部分があり、大字別の高齢化率を示した資料を用意。成田市全体の高齢化率は 20.9%である。ニュータウン地区については全体の高齢化率は 22%と低めだが、吾妻 3 丁目は 48%。玉造 4 丁目は 42.8%と高い。同じニュータウン地区でも違いがある。

集会所数について、新興住宅地については 50%と少ない。市街地と農村地区で分けた場合、市街地では自治会数 128 に対し集会所を持っているところは 64 地区と半分である。新興住宅地の人は高齢化率も高く、対策を講じないと閉じこもりの人が増えるのではないかと懸念している。

農村地区では自治会数が 287 集会所で、集会所は 260 か所であり、市街地と比較すると多い。今後、居場所の確保が課題となると考える。空き家の活用

ついて、NPO 空き家バンクというところがあるが連絡は取れず。シルバー人材センターでは空き家の掃除を行っている。空き教室の活用について、四街道市では空き教室の利用があるが、空き教室の活用は難しい状況にある。公民館の居場所のための優先的な使用は難しい。空き家の活用について行政と民間と一緒に解決していければよいのではと思う。

買い物難民対策として、移動販売について 100 歳体操の参加者に聞き取りをした。今は必要ないが、5 年後には必要になってくるだろうという参加者の意見が多かった。

子ども食堂について。成田市には 2 つある。ひとつは住民有志型、もうひとつは生協との共催で立ち上げている。入口は子供だが、高齢者も含めた多世代間の交流のできる場所として利用できればいいのではと考える。

ワークショップの実施について。民生委員や老人クラブの方と開催。いろいろな意見をいただいている、今後も実施をしていく。

民間市場の買い物難民の調査について。栄町のスーパーナリタヤ担当者に聞き取りした内容の報告。ナリタヤでとくし丸という移動販売の会社とコラボレーションをし、移動販売を開始。栄町からは費用援助あり。販売前にニーズ調査を行うため、5800 軒訪問調査を行った。農村だけでなく新興住宅地でもニーズが高かった。週 2 回、対面販売なのでその方の様子観察ができる。リクエストも受け付けている。ナリタヤとしては利益だけではなく高齢者支援として行っている。販売員さんが異常を感じたら本部に連絡し、本部から人が向かい対応するような体制がある。白井市からも声がかかっているが一台増やすのには時間がかかる。豊住の一部も行っていて、ニーズ調査をしたら声が多かった。次は白井にするか成田にするか考えている。

白井市の聞き取り報告。白井市では地域ぐるみネットワークふれあい会議というものがある。有志の集まりで、地区に必要なものが何か検討するような会議。月に 2 回、要支援 1.2 の方、自力で歩行できる方、一般の高齢者の方を対象に買い物支援を行っている。買い物時間は 40 分程度。移動手段については、白井市にある菊華園という特養が空き時間を使い、車両及び運転手を提供している。また、白井市では居酒屋の空き時間 4~6 時の休憩時間を借りておやじサロンを行っている。サロンは男性がなかなか参加しないが、男性を誘えるようにして、これも居場所になっている。居場所の作り方は様々である。

本年 6 月に行った居場所の立ち上げ準備講座を 12 月に再度予定しており、おやじサロンを展開しているボランティアの方を講師に招く予定。

●委員

空き家の活用は今後の課題になると思う。シルバー人材センターの名前が挙がったが、シルバー人材センターで空き家情報があるのか。

●委員

シルバー人材センターでは個人から受注を受けているもの。清掃・見守りというのはきていない。空き家の活用というものではない。

●委員

空き教室について難しいというのは具体的にどのあたりが難しいのか。

○事務局

生涯学習課で放課後、週末に活動をしている。新しいものを増やすとなると、先生方や管理をしている教頭先生の負担が大きい。教育委員会と話を進めていくとなると時間がかかる。

○事務局

空き教室の現状がまだわからないので調べる必要も出てくる。日中の固定された曜日・時間となると学校の都合もある。また、学校の児童数にも差があり、街中の学校は児童数が多く、空き教室を使うのは難しいのではないかと。

●委員

公民館の優先使用については。

○事務局

公民館は目的が決まっている。決められた曜日、時間で押さえるのは難しい。一般予約で予約を取り、使用することは可能。

○生活支援コーディネーター

四街道市では「コミュニティ喫茶けやき」というものを毎週月曜第4土曜日NPO法人が空き教室を活用して行っている。昼休みには子供たちが喫茶に遊びにくるといったこともある。

●委員

ナリタヤについて、市は関わっていないのか。

○生活支援コーディネーター

車の改造費用を出すというものはあったそうだが、それはイレギュラーなことであり、今後、他市展開したとしても運営費等を請求するつもりはないとのこと。白井市の買い物支援については地域ぐるみネットワークに菊華園が入っていて、買い物支援の声があり実現した。白井市は本年9月に第1層ができる予定で、第2層から始まっている。行政・民間・住民が一緒にやっているところ

ろがよいところかと思う。

●委員

企業がそういったことをやるのは利益があるため。広告塔として宣伝になっているから菊華園もやっているのではないか。ボランティアだけでやっているのではないと思う。

○事務局

社会福祉法人は社会貢献活動が求められている。その関係もあるのではないかな。

●委員

なのはな会は、知的障害者の通所施設として空き校舎を活用している。校長室は地域の方のために常に開けた状態にしている。10月からは、毎週月曜日午後1時～3時に無料で買い物支援を行う予定。国からの通知で、社会福祉法人は法で整備されていないところをやると謳われている。社会福祉法人は無税である。買い物支援については1人でも利用者がいれば続けるが、10月の利用者が1人もいなければ次からはやらないと言っている。地域の中に社会福祉法人はたくさんある。地域貢献事業として、社会福祉法人を活用していくことも考えられるのではないかな。

●委員

小字別の高齢者人数等の資料は公表されているのか。要望があれば見ることができるのか。

○事務局

行政管理課で統計資料として出しているが、人数が少ない場合、相手が特定されてしまう恐れがあるため、全てを公表するのは難しい部分もある。

○生活支援コーディネーター

ナリタヤではニーズ調査訪問を行っている。この辺にニーズがあるという情報があればありがたい。

○事務局

ナリタヤは美郷台、下総にある。地区社協の方に意見を聞いてみるとか、区長回覧でニーズを聞いてみるという方法もある。

○生活支援コーディネーター

ナリタヤは 30 分で行けるところを営業範囲としているが、あきらかに困っているところがあれば 1 時間くらいも考えたいと言っている。店舗より 300m 以内には行かないとしているが、実際に歩いていけない人がこれだけいるとわかれば対応も可能。

●委員

現在配達をしている業者もいるので、そことの兼ね合いもあるだろう。

●委員

企画として買い物支援の事業を作成しようといったプロジェクトを立ち上げたりするのが第 1 層としての役割であり、具体的な部分は第 2 層が行う。第 1 層として何を整備するのかを決めていく必要がある。

○高齢者福祉課より報告。

成田市認定ヘルパー養成研修について。成田市では昨年 10 月に総合事業が始まり、4 月よりみなし事業だけでなく基準緩和サービスも開始された。初任者研修を受けていなくても身体介護を伴わない生活支援を行えるようになり、本年 2 月に養成研修を 3 日間行った。22 名を認定ヘルパーとして養成した。今年度は 11 月 15～17 日の 3 日間行う予定。

なりたいきいき百歳体操サポーター養成講座の実施について。なりたいきいき百歳体操は、平成 27 年度から国のモデル事業として実施したのがきっかけだが、高齢者の方が「住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らす」ことを目指して、住民主体の介護予防を推進し、「地域づくり」に繋げていくことを目的として実施している。平成 29 年 8 月末現在、21 ヶ所の地区で実施され、275 名の方が参加。今後は、この百歳体操を地域に定着させ、より一層推進できるように、その推進役となるサポーターの養成を図る必要があることから、本協議体の委員長である国際医療福祉大学の西田先生らのご協力を得て、サポーター養成講座を実施した。今年度は、9 月と来年 2 月の 2 回を予定しており、昨日、第 1 回目の養成講座が終了した。20 名の方が受講され、成田市認定のなりたいきいき百歳体操サポーターとして養成を行った。今後も、効果的な事業展開を検討し、取り組んでいきたいと考えている。

第 2 層生活支援コーディネーターの設置について。今後は日常生活圏域毎に配置を考えているが、来年度から包括の増設を予定しており、まずは西部南地域包括支援センターに来年度末 1 名を設置。見直しが進んだら他地域も設置を進めていく。

日常生活圏域の見直しについて。図面参照。現在 3 つの圏域に支所含め 5 か所の地域包括支援センターが設置されている。平成 30 年度に現在の西部南地域包括支援センター管轄の成田と公津を分割し、平成 31 年度には中央と東部の見

直しを行い、遠山が単独の包括になる。成田圏域に中郷地区が入り、東部包括を久住下総対象とする。大栄は保健福祉館大栄分館に東部包括支所として設ける予定。

●委員

第2層生活支援コーディネーターの配置について、1層との住み分けというのはどのようなになるのか。

○事務局

生活支援コーディネーターの役割は担い手の養成、サービスの開発、関係者とのネットワーク化づくりが挙げられ、これらは第1層も2層も共通している。ニーズとサービスのマッチングを行うといった具体的な部分は第2層が行う。

●委員

西部南包括にまず第2層を配置するということだが、先駆的に、マッチング等モデル地区としての想定ということなのか。

○事務局

成田地区は西部南地域包括支援センターが担当。地域ケア会議での個別事例の検討や、地域課題について話し合う機会を積極的に設けている。民生委員や地区社協、住民の方やケアマネジャー等の関係者と定期的を開催しており、地域ケア会議を通じて積み上げてきたものを生活支援の創出に結び付けていければと考えている。

●委員

地域ケア会議など、どういう会議がどのように行われているか第1層で知るべき。ばらばらで行動するのでなく第2層が第1層に話を上げるようにできればいいだろう。次の協議体開催時に会議の詳細など共有したい。

○生活支援コーディネーター

各地区でワークショップをやる予定。各包括に協力依頼をし、老人クラブ等にも参加してもらおうと考えている。

●委員

第1層の役割について認識していきたいと考えている。曖昧なまま進めるよりやり遂げたという気持ちがあったほうがよい。委員の方の負担も出てしまう可能性もありえるが、できることから行っていきたい。

なりたみらいプランについて。3ページに人口についての記載あり。協議体で

は先を見据えた活動をする必要があり、成田市の状況の確認。5 ページには基本方針が 6 つ載っていて、1 番 2 番が協議体に関係してくる点。住環境、住みやすいまちづくり等の基盤整備は第 1 層の役割になってくる。基本計画の重点目標 4 番に、地域で支え合い安心して暮らせるまちづくりと載っている。高齢者や障がい者 1 人 1 人が地域の支え合いの中で安心して暮らせる相談体制の充実、体制整備を重点的な目標に設定されている。何が課題でどう改善していくかまちづくりにつながるので、他の内容も各自ご覧いただきたい。

第 1 回の資料より、協議体の説明について大枠を再度確認。第 1 層は市町村区域であり、第 2 層は中学校区域。第 1 層は資源開発を中心に行う。協議体の目的、役割の確認。協議体では多様な機関の定期的な情報共有、地域での連携、柔軟な対応が求められる。企画立案の場としての役割もあるが現在はまだ行っていない。これらを行っていくには相当な活動が必要となると思われる。まずは現在行われている活動を把握して利用する。具体例として、協議体の活用による地域の支え合いの創出に向けた取り組み。市が中心となって生活支援コーディネーターと協力しつつ生活支援サービスの充実を図る。協議体で企画立案、地域資開発、ボランティアの発掘・育成を行うが、現在ある百歳体操等は協議体が企画したものではない。もし企画立案をやっていくのなら話し合いやプロジェクトチームを立ち上げる必要も出てくる。現在の方向性としては間違っていないが、本来は協議体が企画立案をするものの、その点についてはまだ行っていない。第 1 層で何ができるか話をし、実践を第 2 層が行うイメージ。第 4 回では市の状況や課題に対して具体的にどういうシステムが使えるかという議論や、ケア会議がどう行われているかの情報共有ができればと考えている。

○事務局

具体的なイメージとして、調布市の事業報告書の内容を紹介。第 2 層のイメージとして、地区協議会に出席した第 2 層生活支援コーディネーターが高齢者のたまり場となっていた喫茶店が閉店することを委員の雑談の中で聞き、第 2 層の協議体開催時にその話を提供。メンバーである商工会の委員から酒屋の空きスペース活用の提案があり、生活支援コーディネーターが酒屋に訪問し、居場所として提供してもらえるようになった。ニーズがあったものをマッチングして居場所を提供したという事例。

第 1 層のイメージとして、第 2 層生活支援コーディネーターは、気軽に集まれる場所の確保に苦慮していることを第 1 層協議体に困っていることとして報告。一方、第 1 層生活支援コーディネーターは、空き家をどうにもできず困っているという市民がいるという情報を入手。第 1 層協議体に空き家対策の関係部署の職員に参加してもらい、空き家を高齢者の居場所づくりに活用できないかと打診をした。その結果、地域活動のための仕組みを構築しようということになり、空き家を提供してくれた人に謝礼を支払うといった制度の構築に繋が

った。そういった制度化、企画立案の部分も第1層の役割でもある。実現可能なものとそうでないものもあるが、市と協議体で議論しながら進めていければ。イメージとしてはこのように持っていただければと思う。

●委員

様々な問題があり、ひとつにまとめるのは難しい。役割として資源開発や企画立案があるが、やりたいことやどれをやるのか選んで決めるのは難しい。アドバイスをいただければと思う。

●委員

第1層第2層と回りだせば課題があがってきてピンポイントの議論ができるかと思う。

●委員

やれることをやるといったことになると偏りが出る。これからどうするのか、といったところに焦点を当てていかないと難しい場面があるかと思う。

●委員

こういう課題があるのでこうしたらどうか、といった方針の決定については市に挙げていき、市がそれはどう捉えるかということになるかと思う。

○生活支援コーディネーター

買い物支援としては宅配システムが広まっているが、自分の目で見えてこれを買いたいという生活を望んでいる人がいる。市全体としてそういうニーズがどれくらいあるのか明らかにしておくことも課題かと思う。

●委員

各委員の担当・所属のところで課題があると思うが、協議体全体としては、決定事項ではないが、3つの課題を中心に話を進めてまとめているところ。調布市の例は居場所がないという課題が第1層で挙げたから実施できたのではないかと思う。第1層は課題の共有が先決。所属のところでこういう問題があるといった話があれば教えていただきたい。

○生活支援コーディネーター

空き家の活用について、例えばロータリークラブでは事業主がメンバーになっていたりするので、そういう方に協議体に参加してもらったり意見をもらったりという案もあるかと思う。空き家がどれくらいあるかという情報がもらえるようにできればよい。

●委員

それは委員に入るといふことか。

○生活支援コーディネーター

委員に入らなくても何か意見をいただくとか。

●委員

第1層から意見をもらいにいくのはあまりイメージがなかったの。

○生活支援コーディネーター

第1層とか第2層とかよく分からないんですけど、情報がない今、空き家活用に関しても、少しでも情報をいただけたところからいただいた方が。

●委員

第1層、第2層が分からないということはなしにしないと。今回は、ここでその情報を持ち寄る場ではないが、空き家が課題ということになれば、次回、空き家について情報を持ち寄ってもらうことはできる。また、生活支援コーディネーターが情報を第1層協議体に持ってきてもらい、それを話す材料として委員の方から意見をもらうことができる。

○事務局

少し古い資料になるが、建築住宅課が自治会の協力のもと空き家についての調査を行い、回収率は約80%で、平成28年2月時点で空き家は市内に951か所あることが分かっている。ただ、その空き家が借家か持ち家かといった具体的なところは分からないので、今後、必要に応じて調べる必要があるかと思う。

●委員

空き家利用の件について、集会所がないから空き家利用の話が出ていると思うが、集会所がない地域に焦点を当てて一つ一つみていかないと地域の課題が見えてこないのではないか。空き家の活用を市としてどうするというのもケースとして難しいのではないかと思う。空き家とは離れてしまうが、百歳体操については、参加できるぐらいの足を持っていたり、ツールを持っていたりが必要で、5年後には絶対必要だが、できるだけ小さい単位で行えれば参加者も増えると思う。単独では行けないけれど、「車に乗せていくから、行こうよ。」という声掛けがあれば、要支援や要介護の人、軽度の人も含めてより百歳体操が活発になるんじゃないか、さらに参加者が増えると思う。

●委員

ボランティア活動で問題になるのが、乗せていくからいいよ、の範囲。友達を乗せていただけならいいが、友達の友達も乗せるといったことになるのと何かあった時の危惧がみんなある。ボランティア保険に入っているが、人を乗せたくないという現状もある。昔は他の方を乗せていたが、歳を重ね高齢になり、乗せてあげたいけれど今は躊躇する人もいる。百歳体操やおぞら会とかあるが、人を乗せていきながらなくなっているのが現状です。

○生活支援コーディネーター

農村地帯の方は、隣近所で乗せたりということがあったが、段々、高齢化してきているので、送迎自体がなかなかしづらくなってきているという状況です。

●委員

60歳の時はよかったけど、65歳になったから、自分だけが参加するというのがありますよね。昔は運転にも自信があったけど。

●委員

そういうのはケアマネさんも把握しているのではないですか。

●委員

日頃の地域の関係性が昔と違うと感じる。若い人とのズレもある。今後関係性が後退していくと思うが、そこを無理やりどうにかするというのも違うと思うので難しい問題だと感じる。

●委員

協議体の第4回目では具体事例を出しながら議論をして、話をまとめていきたい。プロジェクトを立ち上げるかどうかといった議論をできるような材料を準備していきたい。

○事務局

送迎の問題が出ていたが、総合事業の中に移動支援がある。デイの送り迎えや病院受診時の送迎などが含まれているもので、そこに組み込んでいけたらいいが、他自治体でもなかなか実施できていない現状がある。今後議論の中でそういった部分の構築にも繋げていけたら方向性も見えていくのではないかな。

●委員

緩和型サービスの利用者というのはいるか。

○事務局

緩和型の事業所の指定は行っているが利用者は現在いない。これからだと思う。

次回開催

11月20日（月）14時から第2応接室